

霊的な礼拝（第一部）

ホープ・チャペル所沢

第一コリント人への手紙14:13-40

「私は、あなたがたのだれよりも多くの異言を話すことを神に感謝していますが、教会では、異言で一万語話すよりは、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五つのことばを話したいのです。」（第一コリント14:18-19、新改訳）

序文

神様は、私たちが互いに愛し合い、互いを建て上げるために、霊的な賜物を与えて下さいました。そのため、すべての信徒は自分に与えられた賜物が何であるかを知り、愛と知恵をもってその賜物を用いることを学ぶ必要があります。この「学ぶ」という過程は、単に神様が与えてくださった賜物の仕組みを理解し、愛をもって用いる方法を学ぶだけでなく、いつ、どのようにしてこれらの賜物を最善の方法で（つまり愛に満ち、互いに益となる方法で）用いるべきなのかを学ぶことも含んでいます。

1. 神様からの賜物と、私たちの集いに対する神様の目的 (13-19節)

ア) 異言で話すこと、祈ることの仕組み。

イ) 目的を持って私たちを集めて下さった、その神様の目的を達成するために。

2. 異言と預言、信者と未信者 (20-28節)

ア) 「使徒パウロ、異言は未信者で、預言は信者のためですか？それとも、その逆ですか？」

イ) 「あなたがたが集まる時には…そのすべてのことを、徳を高めるためにしなさい。」
(26節)

3. すべてのことを、愛と互いの励ましのために行いなさい。 (29-40節)

ア) 聖書と知恵をもって、預言のことばと啓示を吟味しなければなりません。

イ) 公的な集いにおける女性の役割と貢献は何であると考えられていましたか？

結論

神様の恵み、賜物、召しが永遠であるのに対して、私たちの文化や状況は変わっていくものです。そのため21世紀の今、私たちは公私の集いに関わらず、礼拝と弟子訓練に対する新しい神学的な理解と実践を持つことが必要です。

私たちの祈りと学び、話し合いと実践のために

1) 13-19節で、使徒パウロは異言の賜物とその機能についてどのように説明していますか？

2) 20-28節で使徒パウロは、異言と預言によって徳が高められるのは誰で、それはなぜだと言っていますか？

3) 29-40節を、第一テモテ2:8-15とガラテヤ3:22-29と読み比べてみましょう。私たちは何をすべきでしょうか？

092108hctj